

みやぎ情報活用ノート 情報活用能力の育成カリキュラム（小学校編）

このカリキュラムは、文部科学省が示す新学習指導要領の趣旨を踏まえ、情報活用能力の育成に関する指導項目の概要を整理した「情報教育推進校（IE-School）における実践研究を踏まえた情報活用能力の体系表例」を参考にしながら、学校でより具体的に育成に向けて取り組むことができるよう4分野に分類しています。

要素	概要	学習内容
 活動スキル	コンピュータや図書などのさまざまな情報手段を活用するための基礎的な知識・技能	A1:記録と編集 A2:PCの操作 A3:ウェブ検索 A4:図書利用 A5:インタビュー A6:アンケート A7:メモ A8:口頭発表
 探究スキル	収集した情報を精査し、整理・分析し、まとめ・表現する際に働く思考・判断・表現力	B1:取捨選択 B2:読み取り B3:創造 B4:伝達内容の構成 B5:表現の工夫 B6:受け手の意識 B7:学習計画 B8:評価と改善
 プログラミング	問題解決の手順を理解し、コンピュータの特性をいかして思考・判断・表現する力	C1:物事の分解 C2:情報の分類 C3:情報の関連付け C4:問題解決の手順 C5:試行錯誤 C6:データの傾向 C7:情報技術の将来
 情報モラル	情報社会や情報手段の特性の理解と、安全かつ適切に情報手段を活用しようとする態度	D1:コミュニケーション D2:法と権利 D3:健康と安全 D4:ルール、マナー D5:セキュリティ D6:個人情報 D7:情報社会の将来

ワークシート活用に当たって

各ワークシートは、子供たちに身に付けさせたい情報活用能力について、発達の段階に応じて活用できるよう、作成しています。順番に使用する必要はありません。学習のねらいに合わせて、ワークシートを自由に選んで活用ください。また、一部の設問のみを使用することも構いません。指導例を参考に、あらゆる教科で自由に活用していただくと幸いです。

情報活用能力の具体・本書掲載の実践事例		
低学年	中学年	高学年
情報を集めたり、発信したりすることに関わる基本的な活動をマナーを守って行うことができる。	情報を集めたり、発信したりする際、コンピュータを含む情報手段を目的に応じて活用することができる。	情報を集めたり、発信したりする際、情報手段の特性を意識して活用することができる。
カメラをつかおう	ローマ字で言葉を入力しよう インタビューをしよう	ウェブで検索しよう プレゼンテーションを工夫しよう
	調べたことをメモしよう	
情報を編集（整理・分析や表現）する際、与えられた視点や観点のもとで工夫して取り組むことができる。	情報を編集（整理・分析や表現）する際、学びの見通しを持って視点や観点を理解し、試行錯誤することができる。	情報の収集・編集（整理・分析や表現）・発信の過程を組み立て、目標を意識して評価・改善することができる。
くらべてみよう	調査に出かけよう 〇〇について提案しよう	情報を組み合わせて考えよう 相手を意識して自分たちの考えを伝えよう
問題の解決には手順があることを理解する。	問題解決や表現活動の際、コンピュータに与える論理的な手続きやデータをさまざまに工夫できることを体験的に理解する。	コンピュータを使った問題解決や表現活動を通して、情報技術の価値を社会や自らの将来に関連付けて考えることができる。
ヒントカードをつかい、クイズをつくろう	クイズをプログラミングしてみよう	ヒントの出る問題や連続する問題を、プログラミングしてみよう
自他の情報を大切にし、ルールを守って安全に情報手段を使用しようとする。	情報手段の利便性と危険性を理解し、自他への影響を考えて使用しようとする。	情報社会の価値や課題を認識し、情報手段を適切に活用しようとしている。
生活をみなおそう 友だちのまね	使いすぎていないかな	自分と相手とのちがいを